

北海道上士幌町の取組

小堀 雄二*・野崎 寛一**

北海道上士幌町教育委員会の小堀です。よろしくお願いします。上士幌町は北海道の真ん中から辺りだと思ってください。羽田空港からとかち帯広空港まで1時間35分、とかち帯広空港から上士幌町まで車で1時間15分、上士幌町から旭川までが車で2時間半、札幌までが約3時間です。北海道の面積が広いので移動時間はかかるのですが、どこへ行くにも行きやすい場所になっています。

私は今、教育長をしておりますが、その前は地元の小学校で勤務をしておりました。その前は二十数年間、先ほど説明しておりました島根県の担当者と同じ社会教育に携わっていました。そこで蓄積したものを学校現場で、学校現場で蓄積したものを今の教育行政全般で展開しているところです。

上士幌町はこんな町です、というイメージを持ってもらえるといいかなと思っていますが、右上に牛の写真があります。人口が約5000人の町ですが、牛の数は約4万頭います。道路を歩いていると牛が歩道を歩いているということはありせん。糠平地域では、歩道に時折エゾ鹿が歩いています。まちなかの鹿は人間が銃で撃てないことを知っているので、鹿は安心して歩いています。

その下の写真は牛の家畜ふん尿を処理するバイオガスプラントです。これは今まで大変厄介なものだったのですが、これを自分たちの生活に役立てようということで、バイオガスプラントを作っています。地元の電力会社、上士幌電力は、町の全世帯分の電力を賄うくらい出力

があります。

その下の写真には、ドローンが飛んでいます。先ほど、5000人の町と言いましたが少しずつ人口が減ってきています。上士幌町では、移住定住の呼び掛けをしています。北海道には179の自治体がありますが、上士幌町は北海道で5番目に移住定住の体験住宅に入る方が多いまちです。1年間で約100人がお試し暮らしをしています。その中の何組かが定住して町の産業を支えています。中心部の人口密度は高いのですが、少し離れの所では人口も少なく高齢化も進み、生活の足を確保するのが課題となっています。おじいちゃん、おばあちゃんが買い物に行けない、なかなかバスもないといったときのために、今ドローンで実証実験をしています。既に新聞やお弁当などを山間部に運んでいます。皆さんがたが来る2年後には、こうした光景が日常になっているかもしれません。

そして、その隣に自動運転バスが走っていますが、これも実証中で、オペレーターが乗っています。しかし、これも2年後には恐らくですが無人の自動運転バスになっていると思います。現在は1日6本か7本運行しています。まだ乗車数は多くはありませんが、もしかすると2年後に皆さんがたが来るときには自動運転バスが町中をくるくる回っているのではないかと思います。

そして一番左側、これが先ほどお話しした糠平地域で、非常に景色のいい橋があります。ここが日本遺産にも選定されている所で、素晴らしい景観ということで紹介されています。

小堀 今、町ではこのSDGs、子どもから大人

*北海道上士幌町 教育長

**北海道上士幌町認定こども園「ほろん」 保育教諭

までがみんなで取り組んでいます。

<映像>

(A-) バイオガス発電によるエネルギーの地産地消。上士幌町では酪農、畜産業の拡大により、ふん尿の適正な処理が課題となっており、その課題解決策として、バイオガスパラントの設置を始めました。現在では町内6カ所、全7機が整備され、バイオガスパラントで発電された電気は町内の公共施設や農業施設をはじめ、一般家庭にも供給しており、エネルギーの地産地消を進めています。

(B-) 北海道のこの十勝上士幌は食糧自給率がすごく高いので、子どもたちも食の大切さに気付かされる場面がすごいです。

(A-) 次世代高度技術を活用した町づくり。ドローンや自動運転ARなどの新技術を活用し、スマートタウンの実現に向けた取り組みを進めています。

(C-) 上士幌町ではドローンを使った買い物支援というのを今、実証実験で行っています。市街地からちょっと離れた農村部に住んでいる方々、自動車運転免許を返納した方々など、用途は多様です。

小堀 先ほどSDGsについてお話しましたが、皆さんがたは今、まだ大学1年ですが、SDGsへの取組は社会教育とも大きな関わりがあります。学校の先生だけで進めるのではなくて、地域にはいろんな能力を持った方々がいますので、そういった方々の力も借りて授業を行い、自分事として目標を掲げ、子どもがそれぞれの家庭に持ち帰って発信していくという取り組みです。

これはスマートストアの写真です。上士幌町は市街地にセブン-イレブンと、セイコーマートというお店があります。セイコーマートは午

後の11時で閉まります。道の駅かみしほろもありますが、営業時間もありません。そこで、午前2時まで営業の無人のストアを設置して、購入いただくというシステムを取っています。今は社員がやっていますが、2年後は地元の高校生が運営しているかもしれません。地元の高校生の視点で商品を発注したり、客層を見て世代による関心を拾い上げたりしながら店を展開していくのではないかと思います。

上士幌町は5000人の小さな町ですが、大きなことをやっています。バルーンフェスティバルです。熱気球の大会です。今年50回目の節目の大会で全国から約60機の熱気球が集まりました。今回、4日間で、10万人以上の方々を訪れたのではないかと思います。地元の高校にも熱気球部があります。皆さんが上士幌に来る期間は定まっていますが、タイミングがよければこのイベントに関われる可能性があります。

私たちはいろいろ物事を進めていくときに、今のことだけ考えるのではなく、将来のことも考えていかなければなりません。人間力向上、文理融合人材育成、世界で活躍する人材の育成、そして教師力の向上などを掲げながら、学校教育の視点だけではなく社会教育の手法を取り入れながら、子どもたちに何とか力を付けられないかということに取り組んでいます。このあとは、野崎先生がこども園を中心とした地域とのかかわりについて説明します。

野崎先生、お願いします。

.....

野崎 上士幌町認定こども園ほろんで保育教諭をしております野崎です。よろしく申し上げます。今日は、『豊かな自然を生かした遊び、学び合いの育み～子どもが元気な町上士幌町～』というテーマのもと、認定こども園の活動を中心に地域の方々とのエピソードを交えながら説明をしていきます。疑問に思ったことがあれば、後ほど質疑応答の際に、上士幌町に関する

ことや講義内容について質問していただければと思います。

1つ目は、認定こども園『ほろん』の役割です。真ん中の写真は、私が勤務している名称の後半にある『ほろん』です。町民に親しまれている『ほろんちゃん』というマスコットキャラクターを由来として、子どもたちを含めた町民の皆さんに愛着を持ってこの施設を利用してもらいたいという願いを込めて、『ほろん』という名称が付けられました。

『ほろん』の特色ですが、右の写真をみてください。地域サロンと子育て支援センターについて写真があります。地域サロンは、町民が自由に利用することができる施設です。子どもたちの様子を大きな窓から見たり、休んだり、楽器の練習をしたり、いろいろな活動をするのできるのが地域サロンです。子育て支援センターは、こども園に入園する前の子どもたちやお父さんお母さんの交流の場となっています。

地域サロンと子育て支援センターはこども園の園舎に併設されております。私が勤務しているこども園は、約160人の園児がいますが、保育施設としての役割だけではなく、世代間交流や地域とのつながりを生む役割を担っています。

2つ目は、地域をつなぐ『ほろん』の活動についてです。写真が3枚あります。一番右の真冬のおでん屋さんの写真を見てください。これは地域とつながる、親子でつながるということを目的に開催された親子パークという行事です。マイナス20度に迫る中、子どもたちやお母さんがたにおでんを振る舞いました。このおでんを振る舞っている方が、上士幌小学校の校長先生です。これからお話しをしていくのですが、写真のように小学校の校長先生も、こども園の先生も含めて町民全員で子育てをしている、子どもたちを見守っているのが上士幌町です。

上士幌の具体的な地域をつなぐコミュニティー活動の例がこちらになります。

ちいきっこプロジェクトと国際交流については、後ほど説明をします。ここでは活動例にあ

るPCTA活動について説明をします。『PTA』という言葉をきくと小中学校に在学しているときに聞いたことがあると思うのですが、上士幌町では、その中にCという文字を加えました。皆さんに非常になじみのある言葉です。PCTAの『C』は、コミュニティー（地域）という意味があり、学校と親だけのやりとりだけではなく、上士幌町ではそこに地域を絡めて、みんなで協力して子どもたちを見守っていこうという思いで作られたのがPCTAです。

3つ目は、国際交流とちいきっこプロジェクトです。写真を見ていただくと左側がこども園で勤務しているALTのデイビッド先生、そして右の写真は地域のおばちゃんたちと農園を作っている写真です。上士幌町は自然も豊かではありますが、海外出身の方も多く在住しています。自然環境や人的環境を大いに活用して、たくさんの世代が交流できる町です。

『ほろん』にはデイビッド先生に加え、国際交流推進員のメイ先生もこども園に勤務しています。デイビッド先生とメイ先生の2名が常に子どもたちと一緒に生活することで幼児期から国際交流が推進されています。具体例を挙げると、週に一度、遊びの中で意図的に英語に親しめる時間を作っています。また、遠足や運動会などの行事に参加しています。

幼児期から多様な人や言語に触れることは子どもたちに良い影響をもたらしました。言語も育ってきた文化も異なるベトナム出身のお子さんをクラスで受け持ったことがあります。その際に大人が手を差し伸べる前に子どもたちの様子を見ていたところ、「どうしたの」や「分かる?」、「一緒に遊ぼう」と声をかけたり、言葉が伝わらないと気付いた子はゆっくり話し掛けてあげたり、手をつないで一緒に遊びに誘ってあげる姿がありました。文化が違っていても、上士幌町では幼児期から多様な人、モノ、言語を受け入れる基盤があり、閉鎖的ではなくてみんなで助け合える環境があります。

海外出身の方が多いという説明を先ほどし

ましたが、令和5年1月1日の時点で148世帯173名の方が住んでおります。グラフを見ていただきますと、約10年で4倍に増加していることがわかります。『ほろん』では海外出身の町民を招いて一緒に給食を食べたり、さまざまな国の食べ物を一緒に作ったりしています。また、近隣の町村のJICAの方々を招いて交流をするなど、少しずつ広がりが増え始めています。出身地に関係なくみんなで学び合い、交流ができることも上士幌町の強みではないかと感じております。

右側の写真を見てください。1、2週間ぐらい前の写真です。春に地域の方と一緒に作った農園で冬が来る前に片づけをしている写真です。子どもたちも、地域の方々もちいきっこプロジェクトを通じて学び合い、笑い合い、元気になることで上士幌町に活気が戻ってきました。

次に、動画を見ていただこうと思います。「ほろん体操」という、上士幌町認定こども園完全オリジナルの体操です。30秒ほどなのでご覧ください。

(映像)

野崎 途中までの30秒ほどの動画なのですが、作詞・作曲踊りを考えたのは、上士幌町教育委員会と『ほろん』の職員です。この動画は、新型コロナウイルスの影響を受ける中、楽しく体を動かしながら健康づくりができるよう家庭にも配信しております。また、町民の方とも、町や園の行事を通して踊っております。

4つ目は、休日の園庭開放です。「上士幌町園庭開放」と調べていただきますと、少し詳しく出てくるのではないかと思います。全国的に休日に保育施設を、子育て世代のために開放しているのは非常に珍しいことです。

また、保育園留学については、「上士幌町保育園留学」と調べていただきますと、参加してくれたご家族の体験談が載っております。皆さんも2年後に地域実習に来るにあたって、

事前に体験談を見ると上士幌町はどのような環境なのか想像しやすいと思いますので、ぜひ調べてみてください。

2年後、皆さんが数ある地域実習の候補地から上士幌町を選んでくれた際には、町の一員になることができます。子どもたち、町民の皆さん、みんな待っております。楽しみを分かち合って、支え合って、学び合える日々がきっとあると思いますので、ぜひ上士幌町に来ていただければと思っております。お話は以上になります。また会える日を楽しみにしております。きょうはありがとうございました。

(質疑応答)

A 先ほど福本さんから、疑問を持ちながら地域課題を見つけてやっつけてやろうぜっていう思いで地域実習に参加してくださいというお話がありました。これから皆さん、学生さんたちは地域課題を見つけていくと思うんですけど、今の時点で小堀さんがお話しできる地域課題というのは何なのかなということで、ちょっとお話していただけますでしょうか。

小堀 地域課題は、実は島根県さんのほうに出たのと共通のものになります。一番大きいのは子育て世帯が、若い親が入ってきていますが、地元で親せきがいなかったり、近所仲間で世間話ができる機会が多くなかったり、一緒に話せる仲間づくりと場づくりが課題だと思います。

次に、先ほど野崎先生も話していましたが、上士幌町には外国人が170名ほどいます。これはほぼ全部、酪農関係の実習生です。日本で暮らす外国人実習生の生活は、朝4時から7時ぐらいまで搾乳し、その後、時間が空き午後3時くらいから作業が始まります。この空いている時間に会話と交流を企画したいと考えていますが、事業者間で調整が付かず予定通りに進まないのが課題です。これまで、書道や着付けな

ど単一事業所での開催はありましたが、複数が集い体験する場がないで、何とか解決の糸口をつかみたいと考えています。

そして最後に、田舎の子どもたちなので大学生と接する機会が少ないのが実態であり課題でもあります。地元の中学生や高校生と、青山学院大学の学生が何らかの形で今後、かかわりが持てれば、生き方や考え方も含め地元の子どもたちも変化変容するのではと思っています。